

## 林業相談

## 広葉樹のしたてかたについて

問 広葉樹の造林を行いたいのですが、現在までの造林の実績と植栽にあたって参考になることがありましたら教えてください。(上川町 K生)

答 道内の人工造林は、樹種としては専らトドマツやカラマツの針葉樹が植栽されてきたため、広葉樹の造林実績は針葉樹にくらべてきわめて少ないといえましょう。昭和50年度の民有林における造林面積は24,782 haですが、その大半は針葉樹が占め、広葉樹の造林面積は1,182 haで全体の4.8%にすぎません。これを樹種別にみるとウダイカンバ、シラカンバ、ヤチダモがおもで、これらは古くから植栽され部分的に立派に成林している例があります。これまでの広葉樹造林地の多くは成績が思わしくなく、不成績のおもな原因としては適地選定のあやまり、野兎鼠の害および育苗、育林技術が針葉樹にくらべておこなわれている点などがあげられます。

**適地の選定** 広葉樹は針葉樹にくらべると一般に肥沃な土壌を好みます。シナノキ、ミズナラ、ハリギリなどの有用広葉樹の多くは深根性ですから土壌が深くまでよいところに造林することが大切です。道内の天然広葉樹林のなかでも生長、形質ともに良いものは肥沃な崩積土で見られ、しかも比較的小面積単位にしか成立していません。

**優良苗木の植栽** 昭和50年春、光珠内実験林にウダイカンバ、ミズナラ、カツラ、シナノキなど9種の広葉樹を試験植栽しました。その結果、苗長が大きく根張りのしっかりした苗木では活着成績が良好でした。しかし、苗長が小さく根張りが貧弱な苗木は活着がわるいうえに草本によるむれや下刈による損傷などで枯損を大きくしました。

**造林方法** 広葉樹は一般に針葉樹にくらべ開葉の時期が早く生長休止時期がおそいため、秋の植栽は極力避け、春の植栽は開葉前に早く終らすことが大切です。

天然広葉樹林ではかなり高密度に群状に稚樹が発生したとみられる例が多く、造林する場合でも保護効果をあげるためにも、また生育過程での幹枝の分化を促進するためにも群状密植が望ましいと考えられます。

つぎに樹種混交の方法は帯状、群状あるいは上下層の混交がよく、単木混交はむずかしいとみられています。一般に広葉樹は光の要求度が高い陽性の樹種が多く、植栽当初の生長が旺盛なのでササ、雑草などの障害物を極力とりのぞいて生長をはやめることが大切です。

また、広葉樹の多くは野兎鼠の被害を受けやすく、とくにカンバ類の造林地では野兎の食害にあって植栽翌年に全滅した例があります。昭和50年ポプラ類改良種を光珠内実験林に試験植栽した結果、ポプラ類のなかでドロノキ改良種が野兎に強く、ギンドロ改良種では弱いという結果が出ました。このように育種上からも諸害に抵抗性の高い品種を選抜することが課題となっています。

(造林科 北條貞夫)